

新型コロナウイルスの追加接種（オミクロン株対応ワクチン接種）体制整備に係るPPE配布

- 接種体制の整備には個人防護具の装着が必要であるため、オミクロン株対応ワクチン接種が円滑に進められるよう、国から都道府県・市町村（特別区を含む）に対し必要な個人防護具（PPE）を配布する。
※接種対象者：初回接種を完了した12歳以上の全ての住民。併せて、小児（5歳～11歳）の3回目接種分についても配布。

2回目【1月中旬から順次開始】 国から都道府県及び市町村への配布

- 接種体制整備の主体となる都道府県及び市町村に対して、10月上旬配布の希望も受け付け・対応しつつ、初回接種を完了した12歳以上の者の追加接種に必要なPPEを配布。※併せて、小児（5歳～11歳）の3回目接種分についても配布。
- PPEは都道府県及び市町村の要望に応じて、2回に分けて配送を行う。初回の配送は10月中旬、2回目の配送は令和5年1月中旬以降を予定。※4回目接種対象者に係るオミクロン株対応ワクチンへの切り替えについては、4回目接種分として配布したPPE等に対応

【配布数のイメージ】

- **サージカルマスク** 標準量：接種対象者数÷20回×7人（枚）
 - ・会場担当者（接種T（予診、接種、薬液充填・接種補助）計3名、経過観察1名、事務3名で1ライン）の装着を想定。
 - ・1日1ライン20回接種を前提として算出。
- **非滅菌手袋** 標準量：接種対象者数 + 接種対象者数÷20回（双）
 - ・①接種者の装着（被接種者ごとの交換）、②薬液充填・接種補助者の装着、の合計で算出し、この中で予診・緊急対応の必要時の装着も想定。
 - ・薬液充填・接種補助者装着分は、サージカルマスクの会場担当者に含まれるため、同様の1日1ライン20回接種の考え方。
 - ・予診・緊急対応の必要時装着分は、接種者装着分の予備で賄う。
- **N95等マスク、アイソレーションガウン、フェイスシールド** 標準量：集団接種会場数×100（枚）
 - ・集団接種会場における緊急時使用備蓄を想定。
 - ・集団接種会場は、1箇所100枚で算出。

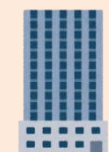
【適宜のタイミング】 都道府県及び市町村から接種会場への配布

【配布のイメージ】 ※ワクチン接種会場への直送を希望することも可能

- **N95等マスク、アイソレーションガウン、フェイスシールド**は、接種会場の設置時に、救急用品として配布。
- **サージカルマスク、非滅菌手袋**は、月2～3回程度のワクチン分配数の決定に併せて、必要数を接種会場へ配布。



厚生労働省



都道府県
市区町村



ワクチン接種会場

オミクロン株対応ワクチン接種におけるPPE配布数

- 初回接種を完了した全ての者（12歳以上）向け接種及び小児（5歳～11歳）向け3回目接種に係る配布数は、5歳以上人口を接種対象者数として算出。
- 上記の考え方に加えて、配送ロットを考慮して、各配布数を切り上げ、多少の予備を念頭に、最終的な配布上限数を決定。

物資名	配布数（理論値）
サージカルマスク	初回接種を完了した全ての者及び小児分：42,363,600枚
非滅菌手袋	初回接種を完了した全ての者及び小児分：126,855,850双
N95等マスク アイソレーションガウン フェイスシールド	全国計：各物資約600,000枚 ※3回目接種での実績をもとに集団接種会場数が全国計約6,000ヶ所と仮定した場合の配布数

○これまでの配布実績（R4.11.8時点）

	サージカルマスク	N95等マスク	アイソレーションガウン	フェイスシールド	非滅菌手袋
1・2回目_医療従事者等・高齢者	約619万枚	約149万枚	約150万枚	約150万枚	約8,810万双
1・2回目_基礎疾患以降	約4,677万枚	-	-	-	約1億5,112万双
1・2回目_職域接種分	約222万枚	約8万枚	約8万枚	約8万枚	約1,940万双
3回目_医療従事者等・高齢者	約720万枚	約19万枚	約21万枚	約20万枚	約2,200万双
3回目_一般	約2,235万枚	-	-	-	約3,518万双
3回目_職域接種	約55万枚	約5万枚	約4万枚	約4万枚	約496万双
4回目_60歳以上の者及び60歳未満の基礎疾患を有する者等	約504万枚	約11万枚	約13万枚	約12万枚	約1,407万双
4回目_医療従事者及び高齢者施設等の従事者	約72万枚	-	-	-	約207万双
1回目_オミクロン株対応	約1,012万枚	約15万枚	約13万枚	約12万枚	約2,889万双
合計	約1億116万枚	約207万枚	約209万枚	約206万枚	約3億6,579万双